

会議録

会議名	令和3年度（2021年度） 第3回八王子市社会福祉審議会児童福祉専門分科会	
日時	令和3年（2021年）8月6日（金） 午後1時30分～3時30分	
場所	八王子市役所 全員協議会室	
出席者氏名	委員	師岡章会長、松丸渉副会長、池水大委員、石田健太郎委員、岩本ゆりな委員、串田和土委員、久保井奈美委員、小寺明子委員、澤井菊男委員、早乙女進一委員、高倉裕香委員、高橋香里委員、前原教久委員、（会長、副会長、以下五十音順）
	説明者	松本美保子子どものしあわせ課長、米村勇子どもの教育・保育推進課長、東郷信一子ども家庭支援センター館長、吉森研吾保育幼稚園課長、小林勝巳子育て支援課長、小俣英一青少年若者課長、長谷川由美大横保健福祉センター館長の代理で鈴木主査、遠藤徹也障害者福祉課長、浅岡秀夫生活自立支援課長、鳥越克彦特別支援・情報教育担当課長、吉岡淳二主査
	事務局	鈴木貴子主査、小野渉主査
欠席者氏名	石井淳委員、高橋雅美委員、町田利恵委員	
議題	議題 八王子市子ども・若者育成支援計画の令和2年度取組状況の点検及び評価について	
公開・非公開の別	公開	
非公開理由		
傍聴人の数	1名	
配付資料名	別紙のとおり	
会議の内容	別紙のとおり	

配付資料

○子ども・若者育成支援計画の指標

○子ども・若者育成支援計画 点検・評価資料

【松本子どものしあわせ課長】

ただいまから八王子市社会福祉審議会児童福祉専門分科会 令和3年度第3回会議を開催します。

事務局の子どものしあわせ課長の松本と申します。本日は委員18名のうち、出席者が14名で開催要件を満たしております。本日は石井委員と町田委員から欠席の連絡をいただいております。なお、まだいらしていない委員もおりますが、時間になりましたので始めさせていただきます。

本日、子ども家庭部長は公務のため欠席となります。

さらに、本日が初めての出席となる委員の方を紹介したいと思います。所属とお名前だけ紹介させていただきますので簡単に自己紹介をお願いします。連合南多摩地区協議会池水 大委員

【池水委員】

ただいま紹介していただきました池水と申します。南多摩労働組合八王子支部に所属しております。よろしくお願いいたします。

【松本子どものしあわせ課長】

ありがとうございます。次に八王子市民生委員・児童委員協議会澤井 菊男委員

【澤井委員】

民生委員・児童委員の澤井と申します。よろしくお願いいたします。

【松本子どものしあわせ課長】

続きまして、本日配付しました資料の確認をさせていただきます。まず、本日の会議の次第です。前回も使用しました、令和2年度の子ども・若者育成支援計画の取組内容をまとめた資料と、A3版の指標です。よろしいでしょうか。

では、今後の進行は師岡会長にお願いいたします。

【師岡会長】

それでは、第3回目の会議を始めたいと思います。前回に引き続きまして、「八王子市子ども・若者育成支援計画の令和2年度取組状況の点検及び評価について」です。皆さんでご議論を行ってまいりたいと思います。

前回は、基本方針の1と2について、皆さんにご意見を伺ったところでありますが、本日は基本方針3「子ども・子育てをみんなで支えるまちづくり」から5までについていろいろ意見を伺ってまいりたいと思います。

ですが、前回、基本方針1と2の中でご質問いただいたうち、関連する所管の方が不在ということで、(回答が)保留になっていたところもございますので、現時点でお答えいただける範囲で事務局からお願いします。

【松本子どものしあわせ課長】

では、事務局からお答えさせていただきます。

その前に、本日、子ども家庭部以外で出席いただいた職員を紹介します。

まず、教育委員会から学校教育部特別支援・情報教育担当課長です。

【鳥越特別支援・情報教育担当課長】

学校教育部特別支援・情報教育担当課長の鳥越と申します。よろしくお願いいたします。

【松本子どものしあわせ課長】

次に、医療保険部から大横保健福祉センターの主査です。

【鈴木大横保健福祉センター主査】

大横保健福祉センターの鈴木と申します。よろしくお願いいたします。

【松本子どものしあわせ課長】

次に、福祉部から、障害者福祉課長です。

【遠藤障害者福祉課長】

障害者福祉課の遠藤です。よろしくお願いいたします。

【松本子どものしあわせ課長】

最後に、同じく福祉部から生活自立支援課長です。

【浅岡生活自立支援課長】

生活自立支援課の浅岡です。よろしくお願いいたします。

【松本子どものしあわせ課長】

それでは、前回の質問についてですが、まず、スクールカウンセラーによる面談の対象年齢が、小学校5年生、中学校1年生となっている理由についてですが、東京都教育庁から指定されております。文部科学省で毎年実施している、児童・生徒の問題行動調査から、小学校5年生、中学校1年生、高校1年生で、いじめの認知件数が増加する傾向がみられるため、その学年で全員面談をすることとされる通知が出ているためとのことです。

また、スクールカウンセラーとソーシャルワーカーを増員できないかのご質問に関しましては、東京都からの配置ではありますが、市独自でも増員の必要性を感じていることから、増員のための予算要求を行っているとのことでした。

なお、ソーシャルワーカーの役割を先生たちにあまり知られてないのでないかのご質問についてですが、(統括)指導主事から、今年の7月から全教員が「いじめの基本方針」「いじめの対策委員会」のほか、スクールカウンセラー、ソーシャルワーカーの活用方法について研修を受けているとの回答でした。

次に、小学校の食器に関しましては、食器を置くスペースの問題と、お子さんが配膳を行うことから、配膳に時間がかかってしまうと食べる時間が少なくなってしまうということから、簡素化しているとの回答でした。

次に、キャリアパスポートの公立小学校から私立中学校への引継ぎについてのご質問ですが、これは文部科学省の初等中等教育局から全国に通知が出されていまして、都道府県教育委員会、各学校、各地域で柔軟にカスタマイズし、令和2年4月から全ての小学校、中学校、高等学校で実施することとなっており、校種を問わず、私立の中学校、高等学校も含まれるとの回答をいただきました。

前回の質問に対する回答は以上となります。

【師岡会長】

ありがとうございます。

ただ今の回答に対して何かご確認されたいことはございますか。

よろしいでしょうか。また、何かお気づきの点がございましたら、遠慮なく挙手をしてご発言ください。

なお、前回石田委員から今回の点検・評価の審議の資料に関しまして、昨年度までは詳細な内容の資料であったと投げかけがありましたが、次回の会議において、点検・評価報

告書の様式に基づいた資料が提示されるとのことですので、皆様もご承知の上で審議していただければと思います。

それでは、本日の議題、まずは基本方針 3「子ども・子育てをみんなで支えるまちづくり」ということで、お手元の資料の 19 ページになります。

これについて、委員の皆様ご意見いかがでしょうか。

【久保井委員】

21 ページの施策 28「八王子市の魅力を伝える積極的な子育てプロモーション」とありまして、子育て応援サイトを公開したとありますが、昨年度の評価報告書をみたところ、ツイッターに加えてインスタとかティックトック、ラインなども必要ではないかが出ていたのですが、こういったものは応援サイトの他に追加されたのでしょうか。

【松本子どものしあわせ課長】

フェイスブックやツイッター以外にということでしょうか。

【久保井委員】

いろいろな SNS（のツールが）が増えてきているので、以前より使われている SNS 媒体が増えたのかが気になりました。

【松本子どものしあわせ課長】

まず、今回の掲載されている子育て応援サイトは、市のホームページの子育て情報が少しわかりにくいということだったので、ホームページの子育て情報を全て別のサイトにして、インターネットで手当や保育関係など、市の子育て情報をホームページではないところで見られるようにしてあるものでして、SNS とは異なるものになります。

【久保井委員】

それでは、（施策 28）「様々な媒体を活用した情報発信」という点ではどうでしょうか。

【小野子どものしあわせ課主査】

今、ツイッターとフェイスブックを使って情報発信をしています。それに加えまして昨年度から、市全体としてラインのアカウントを取得して防災情報であるとか、市の全体の情報を流し始めています。まだ出来てはいないのですが、それを活用して、子育て世帯のお子さんの年齢や、妊婦さんなどの状況に合わせた情報発信などしていけるよう、市の公式アカウントを持っている広報プロモーション課と調整を図っているところです。

【師岡会長】

利用者数が上昇しているなど、数字やデータは持っていますか。

【小野子どものしあわせ課主査】

数字で示せるものは、フェイスブックであれば「いいね」を押された数、ツイッターについてはフォロワー数は認識していますが、なかなか上昇していかない状況ではあります。

【久保井委員】

私も、昨年市のラインを登録して、情報を見ることでとても身近に感じる事ができたので、そういった媒体を利用して市の情報を発信していくことは良いと思うので、情報を拡散していく技術を使ってもっと市の情報をたくさんの人が見て身近に感じる事ができるようになればいいなと思いました。

【師岡会長】

若い方々は SNS を闊達に利用されると聞いておりますが、岩本委員は、もっと子育て

世帯の方たちにも利用されるようなアナウンスの仕方なり、何か、アイデアや感じられることはありますか。

【岩本委員】

情報発信という意味では、ハッシュタグ・・・例えば、インスタグラムで、子どもの遊び場にハッシュタグをつけて情報を発信すると、それを検索したときに、全国の子どもの遊び場の情報が出てくる。その中で、八王子市にも大きな公園とかたくさんあると思うので、ハッシュタグを付けて情報発信すれば、八王子市民以外に近隣に住んでいる人たちの目に留まることもあると思います。ただ、写真と言葉だけではなく、検索したときにヒットするような、興味を持ってもらえるような言葉と一緒に投稿するというのもアイデアかなと思います。

【師岡会長】

いかがですか。ハッシュタグなど利用されているのですか。

【小野子どものしあわせ課主査】

活用については、どのように上手く使って発信していけるかということを探している段階です。

【師岡会長】

他のご意見やアイデアなどありますか。

【前原委員】

私はあまり SNS とかは得意な方ではないですが、どんな情報が公開されていて、そういった情報をどんどん取り込んでいこうという方たちはいいと思うんです。ただ、今の子育て世代の方たちの中で、積極的に情報を取り込もうとしている方の割合がどのくらいいるのかが分からない。ただ情報を公開したから見てください、それを使ってくださいというよりは、もう少し具体的な投げかけがあった方がいいのではないかと思います。どんな方法があるかはよく分からないのですが。

【師岡会長】

実は、私もそんなに SNS は詳しくないのですが・・・でも、ハッシュタグを付けるということは、検索でヒットしていくということですよ。自身で八王子市のホームページを見て探さなくても、関心のある人がネット上であれ、SNS であれ、検索していく中で探したいものが自動的にヒットしていくという、そういう情報の提供の仕方でも便利な機能として、活用するのもいいのではないかというアイデアだと思います。是非、参考にしていただいて、若い職員の方たちのアイデアを取り入れていただきながら、検討していただけたらと思います。

【久保井委員】

ハッシュタグをつけることで情報がとりやすくなったりと思うので、SNS での情報発信に関して、予算をつけるなどしてもいいと思います。また、当事者がどんな情報発信を望んでいるのかなど、それこそラインなどを利用してアンケート調査を試みるのもいいと思います。また、あまり SNS を利用しない人も、周囲で利用している人が増えていくことで、広まりやすくなったり、口伝えで情報を得ることもできるチャンスにもなるのではないかと思います。私もその恩恵を受けた一人なので・・・もっと活用できたらいいと思います。

【師岡会長】

良い取り組みを多くやっても、それが伝わっていないというのが悩みの種で、前回も委員からそういった趣旨の意見も出ていたかと思いますが、この SNS の情報発信に関しても、是非しっかりと取組を行っていただきたいと思います。施策にも情報発信の充実とあるわけですから、そこには予算化されているということによろしいでしょうか。

【松本子どものしあわせ課長】

予算を計上するにあたっては、情報を管理する所管なのか、プロモーションをする所管なのか等々、調整が必要と考えますので、市全体での動きもみながら進めていきたいと考えます。また、予算につきましては、近いうちに来年度予算を計上する時期になってきますので、庁内で情報共有して検討していきたいと思います。

【師岡会長】

是非、しっかりとお願いします。

【前原委員】

子育てプロモーションの（施策 28）「八王子市の魅力を伝える積極的な子育てプロモーション」とあります。今、市で、中学校区を中心にした、子どもたちが自分の地域に誇りが持てるような、大人になっても自分の地域を愛せるような地域づくりをということで取組をしていますが、それと、この子育てプロモーションで行う取組の内容で、何か関わることがあれば、お聞きしたいのですが。

【松本子どものしあわせ課長】

未来デザイン室の担当者から聞いているのは、高校生と大学生のワークショップを行って意見を取り入れているということです。また、中学生のお子さんを対象にアンケートを行い、その意見を長期ビジョンに反映させていくということも聞いてはいますが、まだ形になっていないということです。ただ、お子さんたちの意見を地域づくりに反映させていくという取組は始めているそうです。

【前原委員】

各地区で何人もの委員が集まって、ワークショップも何度もやっているんです。その中で、そういった項目についていろいろ話をしているんです。すでにいくつもの意見が出ていると思って聞いてみました。

【久保井委員】

「子どもの発達に関する相談体制の充実」の、総合教育相談室において、小・中学生やその保護者を対象に、心理相談員による発達や不登校などに関する相談を実施ということですが、教育センターで行っているということですか。

【鳥越特別支援・情報教育担当課長】

はい。教育センターで行っています。

【久保井委員】

問い合わせ件数と、実際に相談があった件数はわかりますか。

【鳥越特別支援・情報教育担当課長】

具体的な件数は今は出ないのですが、傾向としては、増えてきていると思われれます。相談の内容も複雑化してきているようです。

【久保井委員】

私の経験としてですが、子どもの不登校や引きこもりで相談しようと連絡をすると、「まず、お子さんを連れてきてください」と言われる。子どもは家を出ることができないと説明をしても、「子どもと一緒に連れてきてもらわないと受けられない」と言われてしまう。そこではじかれてしまう人も多いと思う。そういう対応が八王子市の教育センターなんだと絶望してしまう人もいると思うので、そういう方に対しても、相談を受けてもらえるともっと相談する方が増えるのではないかと思います。

【鳥越特別支援・情報教育担当課長】

実際のお子さんの状態を確認したいというところは、教育センターとしてはあるのだと思います。ただ、委員のおっしゃるように、そういった外に出られない状況ということもあるかと思いますので、寄り添った対応をしていきたいと思います。

【師岡会長】

お子さんが外に出られない状況だから相談をしたい訳ですから、そこは是非寄り添っていただき、相手のお立場を汲んだ対応をお願いします。

【高倉委員】

(施策 37)「障害のある子どもの親の会について」ですが、親の会や、家族会というのは、年に何回くらいあるのですか。

【遠藤障害者福祉課長】

年間の行われている回数というのは、市では把握していません。ただ、様々な団体と繋がりがありまして、障害者の施策を共有する場、自立支援協議会という会があるのですが、その場を通じて、親の会や家族会といったところへ情報発信しているところです。

【高倉委員】

そうすると、障害を持っている方の親や家族から電話などがあった場合に、そういった会を案内することはないのですか。

【遠藤障害者福祉課長】

市としては、特定の会を紹介するということは遠慮させていただいています。

【師岡会長】

ただいまの質問は、基本方針4の内容でしたが、基本方針3のところでのご質問は他にありますか。

【小寺委員】

巡回発達相談についてですが、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言の時には中止し、電話によるフォローとあります。切り替えの時の基準はあるのですか。

それと、巡回相談というのは、お子さんに会って判断するので、電話ではなかなかフォローがしづらいのではないかという印象です。ですので、できるだけ巡回できる体制を整えてもらった方がいいのではないかと思いますので、どういう状況だったら行けるのかという考えをお聞かせください。

【松本子どものしあわせ課長】

担当している、子どもの教育・保育推進課長が遅れて参加する予定なので、後ほどお答えしたいと思います。

【師岡会長】

ただいまのご質問も基本方針4の内容になりますが、基本方針3については他にござい

ませんか。

【岩本委員】

基本方針3の施策24の重点施策にある、「大学との連携による子ども・子育て支援の充実」について、夏休み子どもいちょう塾がコロナの影響で中止になったとありますが、夏休みの自由研究で、このいちょう塾はとていい機会になると思うので、直接集まることは難しいかもしれませんが、例えばオンライン参加、ズームとかで講座を配信するとか、工作とか自由研究でできるキットを送って、オンラインで講義するなど、何かべつの手段での開催は考えられていないのかと思いました。

【松本子どものしあわせ課長】

本日、学園都市文化課は出席していないので、ご要望としてお伝えさせていただきたいと思います。

【師岡会長】

このご質問以外に巡回相談など、コロナ禍において、どうしても中止せざるを得ない事業もあるかと思えます。しかし、対面での対応は中止したけれども、それに代わる方法で、継続性など担保して欲しい。おそらく、岩本委員もそういう思いが根底にあるのかと思えますが、その点はいかがでしょうか。

【松本子どものしあわせ課長】

今、全庁的にもいろいろ検討しているところです。例えば、子どものしあわせ課の事業で言いますと、赤ちゃんふれあい事業など、本来、中学生と赤ちゃんがふれあうことが大切なのですが、この状況下においてできないとなったときに、オンラインで配信して体験するなど、これから始めていこうとしているところです。

【師岡会長】

それでは、基本方針4の審議にはいりたいと思います。

基本方針4は「配慮が必要な子どもと家庭への支援」になります。虐待、障害を持っている子どもさんへの支援、ひとり親のご家庭、貧困等々となっていますが、ご質問いかがでしょうか。

【小寺委員】

施策34の、「気軽に悩みや不安を話せる機会や場所の充実」ですが、私が、保育園の看護師をしていた時も、つどいの広場とか、児童館とか知らないお母さま方が多くいらっしやったのですが、どのような発信をしていて、どのような利用・活用についてお伝えしていたのか聞きたいです。

それから、こういう場所に来られないくらい追い詰められている方たちに対して、どのような支援が必要なのかというのが、私自身も長年のテーマであるので、市としての考えを聞きたいです。

【東郷子ども家庭支援センター館長】

つどいの広場につきましては、ホームページを利用して案内しています。また、広場は0歳から3歳児が対象となりますので、保健福祉センターで全戸訪問する際などに情報提供していただいています。また、広場に来られないような方につきましては、子育てや、ご家庭での何か不安や悩みがあるかもしれませんので、そういった場合は、子ども家庭支援センターでお話を聞いたり、また子ども家庭支援センターの相談員が訪問することもして

います。そういったかたちで、要保護児童対策地域協議会でも情報共有しながら、いろいろな機関で見守り、対策を行っているところです。

【小寺委員】

年間にどのくらいの方が子ども家庭支援センターで相談等されていますか。

【東郷子ども家庭支援センター館長】

総合相談としての電話での相談件数は、延べ件数で令和2年度は56,691件です。その中で、会って対応をしていこうという方が2,657件、半分以上は虐待案件となります。

【師岡会長】

はい。串田委員、幼稚園の現場ではこうした広場の情報、活用などについては、どんな様子でしょうか。

【串田委員】

幼稚園としては、特に広場のお知らせなどはしていないのですが、個人的には何度か利用させていただいたことはあって、地域の横の繋がりというか、近所の方から聞いて、行ってみて、よかったというのがあったので、横のつながりというのが、発信としては強いのかなと思います。

【師岡会長】

幼稚園の場では、育児での困難者など、そんなには見られないのでしょうか。

【串田委員】

そうですね。直接支援が必要なご家庭は見受けられないです。子ども家庭支援センターから情報が入ったので、お子さんを見させてくださいとかは、たまにあります。支援が必要かというところではないという状況です。

【師岡会長】

ひとり親のご家庭なども含めて、保育園の方が困難を抱えているご家庭が多いのかもしれないですね。

高橋委員は元保育士ということでしたが、何か、ご自身の体験も踏まえて、広場とか、困難を抱えているご家庭に対する支援などでご意見はございますか。

【高橋委員】

私が出産したときですが、近くに助けてくれる人がいないという方がいて、そうした際に、助産師さんが市と連携をとって、支えてくれたりとか、人と繋げる努力をしていた。

私自身、産後のストレスとか、ホルモンバランスの影響かわかりませんが、すごく子どもの泣き声でイライラする時があった。外に出たくないと感じるくらいの時があった。そういう時は、誰かに聞いてもらいたいが、話す気にもなれない。そんな時に、気軽に寄れる場所があるのは大事だと思いました。

【師岡会長】

そういう点では、産婦人科にも情報を伝えてもらうのはいいことかと思いますが、その辺の市の取組はいかがでしょうか。

【松本子どものしあわせ課長】

八王子版ネウボラがありますが、まず、妊娠が分かった時に、保健福祉センターで妊婦面談がありまして、そのあと、子育てに不安があるような方につきましては、保健福祉セ

ンターと子ども家庭支援センターで連携して支援していく方もいます。また、出産後は定期的に健診もありますので、その段階で出て来られないような方につきましては、訪問での面談もあります。このように、いくつかの機会を設けて困っている方を発見できるような仕組みを作って対応しています。それでも、その途中途中で危なくなってしまう方に対しましては、病院、保育園、近所の方などから情報を得て子ども家庭支援センターと保健福祉センターで支援していくという状態です。

【師岡会長】

市内の産婦人科にも、広場や相談事業などに関する案内、リーフレットなどで、電話だけではなく、ネットでもアクセスできる QR コードなどの案内はしているのですか。

【東郷子ども家庭支援センター館長】

病院とは、要保護児童対策地域協議会で繋がっています。また、連絡会などもありますが、QR コードは対応していません。

【師岡会長】

先程、久保井委員からも意見がありました、SNS での情報発信や相談などにも繋がると思います。ちょっとした悩み相談などにも使えるようなツールとして使えるようになるとさらにいいかと思しますので、進めていただければと思います。

【池水委員】

コロナ禍にあって、なかなか妊婦面談とか赤ちゃん訪問は難しいと思うのですが、どのような形で行っているのですか。

【鈴木大横保健福祉センター主査】

妊婦面談については、昨年度は東京都の補助金もあって、妊婦さんにタクシー券を配付できた効果もあり、面談率は 95 パーセントくらいになりました。お仕事やつわりで大変な方もいらっしゃると思いますが、割合多くの方がいらっしゃってくれました。また、妊娠に関する育児パッケージを妊婦面談の際にお渡しします、と案内することで、ある一定数の妊婦さんは来てくださっています。去年の5月に比べて、今はコロナが理由で妊婦面談を断る方はだいぶ少なくなりました。

赤ちゃん訪問につきましても、コロナを理由に断る方は多少いらっしゃいますが、割合訪問できています。その場合は、玄関先だけでもお会いできないかというふうにお話しをしたり、電話相談はいつでもできるご案内をしています。また、4か月の乳児検診は必ず来ていただくようご案内をしており、入院等でなければ、ほぼ赤ちゃんに会えている状況です。

また、どうしても会えない赤ちゃんに関しましては、複数の課で情報共有しながら、全ての赤ちゃんの安否確認を行うようにしています。

【高倉委員】

丁寧に対応してくださっているのはわかったのですが、産後ドゥーラという制度はご存知でしょうか。産後ドゥーラの制度を八王子でも取組んでいただけたらと思います。

身の回りで、相談する相手がなくて困っているという方に対して、直接出向いて行って丁寧な対応をしてくれるんです。アドバイスをしながら沐浴もしたり、食事も作ってあげるようなそういう制度なんです。私の友人が中野区でそれを行ってしまして、とても成功しているんです。

【東郷子ども家庭支援センター館長】

子ども家庭支援センターで、産前産後サポートとして、ハローベビーサポートというのを行っております、その事業を拡張して昨年1月から産後ドゥーラに委託して、育児支援、家事支援を行っております。今、3人の産後ドゥーラさんと契約しています。

ハローベビーサポートの依頼を受けた段階で、ご本人の意向も確認しながら、産後ドゥーラさんを繋げたりしています。

【中澤委員】

29ページの「学習支援の実施」について、「ゆめはち先生」ですが、定員30名とのことだが、何人申し込みがあって、どれくらいのひとり親家庭の方が利用されたのか聞きたい。また、ホームページなどで案内があれば、場所を教えていただければ、PTA 連合会でも広めていきたいと思います。

今、コロナで仕事が無くなってしまって、子どもを塾に通わせられない方が、周りにいる。私は、打越中学校だったのですが、塾に通うことができないお子さんたちを集めて、大学生のボランティアを募集して教室を開いたことがあるのです。その中でいろいろ話したり交流もできて、その相乗効果があったのか、卒業式では全員が参加することができた。これは、学校独自の取組ではあるが、こういった取組と連携出来たらよいのではないかと思います。学校としては、予算も無いなかで、大学生のボランティアを募集して行っていたので、もしできたらいいかと思いました。いかかでしょうか。

【小林子育て支援課長】

昨年度は、「ゆめはち先生」につきましては、ひとり親家庭のお子さんを対象にして中学生2年生、3年生を対象に30人を定員として枠が埋まりました。中学3年生におかれては受験ということもあり、中学2年生においてはそれより早い段階で学習習慣を付けていくということで、学習指導員がご家庭を訪問して指導にあたるという授業でございます。

今年度についても、同様に行っていますが、不登校など学校に通いにくい状況にある方を優先して募集をしているところです。要望があった際に、職員が聴取りなどしながら優先度を判定して決定しています。今のところ、まだ30人には至っておりませんので、募集をしているところです。

ひとり親家庭の学習支援で家庭教師として行っておりますので、今年につきましては、対面だけでなく、オンラインでも対応できないか導入を進めているところです。これは、ご本人の希望に応じて、対面にするか、オンラインにするか決めていくところです。

今後も、ご要望に応じて対応していくのですが、一方で地域で行っている学習塾型というような教室もございます。そういった学習塾型のような、集団で学習する環境が望ましいというお子さんもいらっしゃるの、その場合は生活自立支援課で対応をしています。そのような場合は、どちらの方法がよいか連携しながら対応を進めていくというところです。

いずれにしても、お子さんの学習というのは、勉強だけでなく将来に向けて、現在の状況のなかで、どんなフォローが必要か、どのような支援に繋がると、よりそのお子さんにとってよろしいのかなど、気づきの場というものひとつあります。そうやって支援をしながら、合わせて関係する機関に情報提供などもしながらより良い環境に繋がっていくよう進めてまいります。

【中澤委員】

アナウンスはどのような方法で行っているのでしょうか。

【小林子どものしあわせ課長】

ひとり親家庭を対象にした、児童扶養手当がございます。その手当の通知を発送する時に個別に御案内をさせていただいて、ご希望があったときに案内しております。

【師岡会長】

先程、中澤委員の質問の中に、塾に通えないお子さんへの支援という内容もあったかと思いますが、経済的な困窮を抱えているご家庭に対して、学習支援だけでなく、経済的な支援というのはどうなのでしょう。就学免除制度は学用品などだと思うのですが、塾代などを支援する仕組みというのは八王子市はありますか。

【浅岡生活自立支援課長】

市では直接支援していないのですが、社会福祉協議会で受験料ですとか、学習塾の貸し付けの制度はあります。返済につきましては、一定程度免除といった規定もございます。

【師岡会長】

そういった制度も周知していただきながら、必要なお家庭に活用していただけるといいですね。

また、新1年生などの姿をご覧になりながら、中学生団体でのそういった支援の必要性、学習も含めて、早乙女委員は何かお感の点はございますか。

【早乙女委員】

はい。30名の枠がいっぱいになったということで、いいことだと思うのですが、逆にあふれている子がたくさんいるのかなと思います。そういった子をどうしたらいいのかなと考えます。

【師岡会長】

そこについては、少し枠を広げていくことはどうなのでしょう。

【小林子育て支援課長】

ひとり親施策の中で、いろいろな事業を行っております。その中の一つとして学習支援を行っております。今後、そのような支援が望ましいか、どのような規模が望ましいか常に考えていく必要がございますので、予算の関係もありますが、現在の人数のまま固定ということではなく、必要見応じ検討を加えて支援してまいりたいと思います。

また、やり方そのものについても、今回のコロナの影響も考えれば、オンライン形式というのは有効な方法と考えます。お子さんや、ご家庭にとってどのような方法が望ましいか常に考え、検証しながら進めてまいりたいと思います。

【師岡会長】

是非お願いいたします。

文部科学省や国の科研関係の調査でも、高学歴、高収入というようなこと、その裏返しは、経済的に困難な家庭のお子さんの学習にとっては、厳しい状況ということですので、子どもの豊かな成長と言ったときに、やはり、経済的な支援も不可欠だというのは近年常識になっていると思うので、さらに充実していただきたいと思います。

他にご質問いかがでしょうか。

《松本子どものしあわせ課長 挙手》

【松本子どものしあわせ課長】

先程の、巡回発達相談のご質問ですが、子どもの教育・保育推進課長が参りましたので、回答したいと思います。

【師岡会長】

それでは、小寺委員、もう一度ご質問からよろしいですか。

【小寺委員】

巡回発達相談についてですが、コロナの関係で中止になってしまって電話で対応したとのことですが、実際にお子さんを見て判断することが重要だと思うのです。中止の判断をする時に、どの程度だったらできるのかなどの基準がどうなっているのか、また、今後どのように巡回相談を行っていくのか考えを聞かせてください。

【米村子どもの教育・保育推進課長】

遅れてしまい申し訳ありませんでした。子どもの教育・保育推進課長の米村でございます。

巡回発達相談の中止の基準ですが、基本的には、緊急事態宣言が発出されているときは中止しています。理由としては、巡回発達相談は我々職員が、園に直接訪問しまして、行動観察、発達の検査それからカンファレンスを行いますので、数多くの園を回るため我々職員が感染を拡大してしまう原因になってしまい、園が休園になってしまうことのないように中止にしています。もちろん、感染防止策はきちんと行っておりますが、やはり、近い距離で子どもと接することになるので、そのように対応しています。ですので、今年度になってからも中止になっております。その間、何をするかというと、発達心理の相談員がおりますので、電話でのフォローをし、園の方で個別に対応をとっています。

また、今年度に関しましては、園の先生が、配慮が必要となるであろうお子さんの状況を理解するための書籍の紹介であるとか、いろいろな場面の状況を想定したような事例を示すなどして理解の補助となる方法をとっています。

ただ、緊急事態宣言が解除されれば、また巡回発達相談を再開する予定です。

【師岡会長】

他はいかがでしょうか。

先程も促したのですが、こうしたたくさんの支援に加えて、年齢の低いお子さんですと、待機児童の解消、また児童の虐待の防止というのが非常に重要なテーマになっていると承知しているところです。ですので、その点も、是非ご確認されたいことがございましたらご発言いただければと思います。

【久保井委員】

児童虐待防止のことについてですが、25 ページ、施策 35 のところで、「児童虐待防止のための人財（人材）育成」についてです。具体的には、どんな方々が、どんな研修を受けているのかという質問と、先ほどのお話では、いろいろな方々が、きめ細やかに対応してくださっているなど思ったのですが、その場では平気そうにふるまっても、ぎりぎりの、グレーゾーンの方もいると思うのです。私もその一人だったのですが、そういう方に対する支援としても、SNS とかあったら良いと思うのです。あと、虐待する親御さんへの対応として、どのようなものがあるかお聞きしたいです。

【東郷子ども家庭支援センター館長】

まず、研修の関係ですが、今、児童相談所に職員が1名、2年間派遣されていまして、虐待対応の勉強をしています。また、内部研修として、年10回ほど外部の専門の先生を招いて講義等を受けたり、私も資格は持っていなかったのですが、通信教育を受けて児童福祉士の資格を取得するなどしてレベルを上げるような研修を行っています。

次に、ぎりぎりの状態で子育てをされている方、いらっしゃると思うのですが、働きかけとしましては、ちょっとSNSはまだ弱いところがあると思うのですが、全体としてホームページなどに力を入れてやっております。あとは、オンライン相談などもできればいいのかと思うのですが、個人情報を扱うことになりますので、その壁はあると思うのですが、今後考えていければと思っています。

最後に、虐待をしている親御さんへの働きかけということですが、まず、話を聞いて指導するということはありますが、我々には、一時保護をしたりなど、強制権がないので、そこは、児童相談所と連携をとりながら対応しています。まず、我々で指導して、それでも改善されない場合は、児童相談所で一時保護するなどして、その後は児童相談所で指導し、お子さんが親御さんの元に帰った後は、また子ども家庭支援センターで見守るといった対応をしています。

【師岡会長】

松丸委員、小学校現場では、虐待の実態等いかがでしょう。子ども家庭支援センターとの連携など。

【松丸委員】

我々、小学校でも、かなりの件数がありまして、子ども家庭支援センターや、児童相談所と協力して今進めているところであります。

難しいのが、ネグレクトなんですね。叩かれたとかだと、痣が残っていたり、叱責が強いと、近隣からの通告があったりするのですが、ネグレクトは難しいと思います。子どもが食べていると言っても、なかなかちゃんとした食事ではないパン一つなど、食べているからいいのかということ、判断が難しい、解決が進まないというところがある。保護者と話しても、なかなか進んでいかないところがあります。そういうところ、これから子ども家庭支援センターなり、児童相談所と協力しながら、子どもたちを見守っていく。また、民生委員さんたちも介入していただいている部分もありますので、地域の力も借りながら、学校としては、子どもたちを見ていきたいと思っています。

【師岡会長】

澤井委員、民生委員として、ご意見いかがでしょうか。

【澤井委員】

見守りということで、連絡が来ますと職員の方と一緒に見に行くという状況です。ただ、なかなか発見するのは難しく、行っても誰もいないような状況であったりすることもあります。

【師岡会長】

串田委員、幼稚園では虐待について何か話題になったり、配慮されているところなど、どうですか。

【串田委員】

幼稚園協会とかでは、あまりそういった話は聞かないです。子ども家庭支援センターか

ら情報があって、保護者の方に見せてくださいなど聞いたりしても、大体は勘違いだったりとかして、虐待を受けているようなお子さんは殆どいないと思います。

【師岡会長】

やはり、その辺の見極めが大変難しいところであると思いますが、子どもさんの命を守るという意味で、それぞれの現場で意識を高めること、また、連携を強めることを引き続き取り組んでいただきたいところです。

他はいかがでしょうか。

【小寺委員】

26 ページの施策 37「障害のある子どもの支援体制の充実」ですが、お子さんに対しては、すごく充実しているのですが、保護者に対してが、親の会についての情報提供しか書かれていなくて、気になりました。私の友人で重い障害を抱えているお母さんがいるのですが、子どもが小さいときは体位交換とかできるのですが、お子さんが大きくなっていくと大変になっていって、お母さんが身体的に疲れてくるとメンタル的にも疲れてしまって堂々巡りになってしまいます。大変そうだなと思って、巡回相談や、療養で言っている病院に相談してみてもどうかと言っても、恥ずかしいと言って相談できない。ちょうど話せる第三者の人がいないという印象でした。なので、家族会というのもいいとは思いますが、先ほど、市の方は家族会の全体数を把握していないとのことでしたが、家族会にも質の差があるのではないかと思います。例えば、A という家族会は医療の関係にも詳しくて、B という家族会はそうでもないというような差が生じてしまうのではないかと。そこは、市は丸投げするのではなくて、市も介入して、家族を支えるようにできたらいいのではないかと問い質しました。

【遠藤障害者福祉課長】

市としましては、3年に一度、障害者の計画を作らせていただいております。令和3年度から令和5年度までの3か年ということで、新たな計画に取り組む状況であるわけですが、その中の主要な取組といたしまして、障害児支援の充実も一つあります。やはり、障害児また、障害児をお持ちの家族の方の支援というところで、重点的に取り組む施策を打って出ようと考えております。具体的に言うと、医療的ケア児などを支えていくコーディネーターなどを考えております。コーディネーターを配置して、相談先の設置に向けて動いておりますので、また設置がされた際にはこのような場でご報告ができればと考えておりますので、よろしく申し上げます。

【師岡会長】

市内の障害児・者の施設なり、そういった情報の提供、デイサービスの利用であったり、ボランティアの派遣など、そういうものもアナウンスされているのですか。

【遠藤障害者福祉課長】

市内の事業所とは繋がりがございますので、例えば、その話題でなくても、国からの情報があればすぐに事業所の方に情報発信させていただいております。

【師岡会長】

市内の事業所のとてもすばらしいところがあると思いますので、引き続きお願いしたいと思います。

では、最後に、基本方針5「若者の自立に向けた応援・支援」の審議に移りたいと思い

ます。

【早乙女委員】

若者総合相談センターで、576件相談があったとのことですが、年代、10代とか20代とか、内訳を知りたいのと、相談内容が気になりました。

【小俣青少年若者課長】

若者総合相談センターの利用状況ですが、内訳に関しましては、10代の方20代の方、それぞれ分散はしています。一番多かったのは20代前半の方で、30代の後半の方の利用はあまりないという状況です。性別的には、若干男性が多いという状況でした。

相談の内容につきましては、一番多いのは、やはり長い間引きこもり状態にあり、お勤めはしたけれども上手くいっていない、また、大学は卒業したけれども、どうしていいかわからない、その結果、どこに相談していいかわからなかったが、今回総合相談センターができたということで、相談の糸口で御利用いただいているというところでは。

【早乙女委員】

さらに、支援機関に110件繋がっているということですが、399件のサポステの新規相談件数に流れているというイメージですか。

【小俣青少年若者課長】

総合相談センターから他の支援機関にということですが、確かに、就労に向けた訓練となりますと、サポートステーションへ繋ぐことになる方もいらっしゃると思いますが、また、ひとによっては医療機関の援助の方面へ繋ぐなど、相談者の内容によって様々です。

【早乙女委員】

コロナ禍というのもあると思うのですが、八王子サポステが399件と、18年度よりすごく増えていると思うのですが、相談件数が増える一役は買ったということですか。

【小俣青少年若者課長】

委員おっしゃっていただいた部分はあると感じております。総合相談センターでまずお話を受け止めて、関わりをしていく中で、サポートステーションに行きやすくなる。また、サポートステーションの就労に向けた訓練以外のところのつながりを求めて総合相談センターのプログラムに入ったりという方もいるので、相乗効果は出ていると感じております。

【早乙女委員】

私は、八王子のサポステ大好きなんですけれども、実は、私が担任したクラスの子も、1年くらい引きこもりで会えなかったのですが、なんとか、八王子のサポステにつなげて、半年通った結果学校に復帰することができたという事例もありまして、非常に信頼しているのですが、ただ、認知も少ないですし、ここでつながることが増えたというのは、すごくいいことだと思います。大いに総合相談センターをPRしてもらいたいです。それこそ、芸能人を呼んで、フワちゃんに一日センター長をやってもらおうとか、それぐらい力をいれてもいいのではないかと思います。

実は、去年、都立高校の自殺者が増えました。特に女の子。少しでも、若者含め、20代を含めた方たちの命を救えるような、相談できる場所を増やして欲しいというのが私としての要望です。よろしくお祈りします。

【小俣青少年若者課長】

こういった相談できる場所があるということ、広く知ってもらうことが大切だと思っ

ています。PR については、これまでも市の広報ですとか、ホームページ、また若者総合相談センターのツイッターといったところで行ってはいるのですが、これで十分かという
と、まだまだだなという実感は持っております。これからどのような方法をとれば若者た
ちに届くかということ、本日の会議においてもいろいろご意見が出ておりましたので、
参考にしながら検討してまいりたいと思います。

【師岡会長】

心強いご回答ありがとうございます。

若者というのは、義務教育が終わった後ということで、高校生を含むんですね。つい、
若者というと、社会人という印象があって、高校生は除外されてしまうのかなという印象
を持つ方もいるかもしれません。高校生も含まれているというところの周知も引き続きお
願いします。

【岩本委員】

私の大学にも、学生総合相談室というのがあります。やはり、相談するというのはハー
ドルが高く感じていて、現在所属する研究室でも問題が発生していて、相談室に相談する
ことを周囲から言われても、そこまでの悩みでないのではないかと、他人に話すこと
ではないかと考えてしまうと相談しづらくなってしまいます。「なんでも」とは書いてあっても、
本当になんでもいいのかとか、考えてしまう。例えば、相談の事例などポスターとかに書
いてあると、少し相談しやすいかもしれないと思いました。

【小俣青少年若者課長】

この相談センターで、何を聞いてくれるのか、何ができるのか、本当にこんなことを聞
いていいのかという不安等々、当然、相談者からするとあると思います。総合相談センタ
ーのチラシの中でも示していくようにはしているのですが、例示をあまり多く載せてしま
うと、例示に載っていないことは相談してはいけないのかと、反対にとられないように配
慮しながら、情報発信を考えていきたいと思います。

【岩本委員】

例えば、具体例とかで、学校のことで、勉強についていけないなど、少し詳しく書いて
もらえると、いいのかなと思います。

【早乙女委員】

以前から思うのですが、名前が固いと思います。私は、若者なんでも・・・とかってい
う名前でもいいのかなとは思いますが。抽象的だという意見もあったので・・・ただ、
相談窓口と違って、構えちゃうと思うのです。懐に入るというか・・・キティちゃんを使
うとか・・・

【小俣青少年若者課長】

ご意見ありがとうございます。

この先も、ポスターですとか、改善していきますので、今いただいたご意見を参考にし
たいと思います。センターのスタッフとも、こんな風に表現したらもっと相談しやすいの
ではないかなど、意見を聴きながら対応したいと思います。

【師岡会長】

せっかく良い取組でも、敷居が高いという印象になってしまっただけではもったいないので、
柔らかいイメージの、今の若者に受け入れられるような表現で、もちろん、質が大切です

けれども、アプローチしやすいようなものを工夫していただくようお願いします。

【串田委員】

相談を待つというよりは、相談会場のような形で、マッチングというか・・・以前、拓殖大学の学生さんたちが、館ヶ丘団地の高齢者の方々の申請というか、ボランティアをやっているというのをニュースで見ました。そういうのはとても良いことだと思います。例えば、若者を集めてマッチングというか、そういう形をとることはできるのでしょうか。

【小俣青少年若者課長】

若者総合相談センターの計画にもあるのですが、若者支援をしていくためのまちぐるみのネットワークといいますか、支援機関、ボランティアといいますか、そういうもので裾野を広げていけたらと思っています。これから、進めながら考えていきたいと思っています。

【師岡会長】

前原委員、自治会のお立場で、今の若者支援等で何かございますでしょうか。

【前原委員】

地域づくりの中で、やはり若者の考えとか、行動力とか必要な部分があります。ですから、若者がとか、高齢者がとかで分けないで、一緒にできることがあれば一番いいかなとは思っています。それが、若者が、やりたい、飛び込んでいきたいと思っても、それを迎え入れる高齢者が構えてしまって、なかなか受け入れづらい。そこをどうしたらいいかというところが一つの課題だと思います。

【師岡会長】

地域の高校や大学などと連携しての取組、市内の自治会などでも少し事例はできているのですか。

【前原委員】

まだ、そこまでは行ってないですね。ただ、私の地域では、2年前の台風の時に、近所の高校生が土砂などの除去を手伝ってくれた事例はありました。そういう気持ちが若者の中には十分ある。それを、いい関係にできればいいと思う気持ちは常々あります。

【師岡会長】

若い方たちもそういう気持ちは持っていると思います。しかし、その気持ちをどう発信していったらいいのかが分からないという思いがあると思うのですが、岩本委員、いかがでしょうか。

【岩本委員】

私自身は、今、集合住宅に住んでいるのですが、結構、住民間の交流があるので、例えば、今回のワクチン接種の手伝いをしたのですが、何か機会があれば高齢者と関わることはできると思います。でも、やりたいと思っても、きっかけがないという人もたくさんいると思うので、そういう仕組みとか町会や自治会で役割を持っていけたらいいのかと思います。

【師岡会長】

石田委員いかがですか。大学生なども視野に入れながらですが。

【石田委員】

UR や自治体の取組で、配慮が必要な学生の入居と、ボランティアの連動の取組がされ

ているところですが、そういった機会に参加してくれる学生がある一方で、地域活動に参加する機会が、設けられていない学生にどうアプローチしていくのかが、市としても難しいところなんだろうと感じております。市民参加条例の答申が昨年出ておりますけど、そういったところでも、SNSを活用した情報発信をどうしていくのか、そして、若者を含めた福祉情報へのアクセシビリティを、いかに高めていくのかといった、非常に難しいと思うのですが、答申が出てからそろそろ1年経過するところなので、全庁的にどういった方針で行くのかということもお伺いしたいところです。

【小俣青少年若者課長】

若者の地域や社会への参加ということで、様々なお話をいただきました。

広く若者が地域に参画していくというところでは、自分の力で社会に出ていくことはできて、機会がないという若者については、市民活動推進部の協働推進課などとも連携を考えていく必要があると思います。

また、若者総合相談センターに来られる方、なかなか、社会、地域の中に入っていけないという若者に対しては、地域のお祭りや、清掃作業に参加することで、達成感を得ていくなどといった、計画なども進めております。

コロナの影響で、なかなかできていないという状況もありますが、少しずつ、実現させていきたいと思っておりますので、その際には、地域の方々等のご協力をお願いしたいと思っております。

【前原委員】

たぶん、行政と地域の協働というお話だと思うのですが、あまり行政にあれやってくれ、これやってくれというのは、私は良くないと思っています。

若者が入ってくる際に、行政の力まで借りなくて、地域の力であるはずです。たとえば、お祭りだって、声をかければ若者は来ます。協働というより、地域の力が大きいと我々は思っています。現在、町会・自治会は会員が抜けるという悩みを抱えています。それを、どこかでつなぎとめて、これからの若い世代にも町会・自治会に関心を持ってもらい、地域のつながりに結び付けていくことが大事なんです。

ですので、市の方で一生懸命頑張るとおっしゃってくれているので、お願いしますというばかりでなく、自分たちも同じ気持ちで頑張ることが大切だと思います。

【師岡会長】

そうですね、行政にお願いするばかりでなく、自治会としても若者をうまく取り込んでいく。またそれが、地域で若者を育てていくことにつながるというご意見として受け止めました。

そろそろ終了時刻が近づいてまいりましたが、他にご発言はございますか。

【久保井委員】

33 ページ、施策 50「主権者教育の充実」ですが、学生アルバイトの採用ですとか、市内の学校 15 校における投票箱の貸出とあるのですが、これは効果があったのでしょうか。

【松本子どものしあわせ課長】

本日、選挙課は出席していませんのですが、私自身、選挙の投票管理者を務めているのですが、投票時における立会人がなかなか見つからない状態が続いています。以前は、新成人にお願いしていたこともあったのですが、今はその立会人を探すのに、選挙課が非常に

苦慮していると聞いています。

【師岡会長】

早乙女委員、高校などではどうですか。主権者教育は進んでいるのですか。

【早乙女委員】

そうですね。授業で主権者教育は行っています。

正確には数字は把握していませんが、意外と（投票に）行っているんだなという印象があります。

【久保井委員】

もっと、八王子の投票率が上がるといいです。

【岩本委員】

私は、選挙事務のアルバイトを今まで3回行っているのですが、学生のアルバイトも結構集まっている。朝から夜までの1日長い時間であるが、結構、若者が来ている。ただ、立会人の方は、地元の、町会の偉い方のような、毎回同じ方が来ていて、なかなか見つからないと言っているのを聞いたことがある。学生のアルバイトも広報で募集しているので、立会人とかも、同じように広報でお知らせしたら集まるのではないか。

【師岡会長】

是非、今の意見を選挙課に伝えてください。

【中澤委員】

中学校の卒業式では、PTA会長から、卒業生への言葉の中で、数年後に選挙権が与えられる主旨の話をしている。そういう声掛けをして、子どもたちに意識付けを行っています。会長会の中でも、その時期になると、どんな声掛けをするかなどの話題が必ず出てきます。

【師岡会長】

市民の中でも、意識が高まっているということだと思いますので、行政側もそれを受け止めていただいて、より手厚く推進していただきたいと思います。

他はいかがでしょうか。

特にございせんでしたら、本日はここまでといたします。

今回は、点検・評価報告書の素案を事務局が用意するとのことですので、冊子にしていくものの素案をお示しいただきながら基本方針1から5まで皆様にご確認いただきながら点検・評価をしていきたいと思っております。

それでは、最後に事務局から連絡をお願いします。

【事務局】

次回第4回は8月19日（木）15時から17時まで場所は本日と同じ全員協議会室です。ICカードが無いと入室出来ませんので職員がご案内いたします。正式な通知は近くなりましたら送付させていただきますのでよろしくお願い致します。

【師岡会長】

本日はこれで閉会します。

ありがとうございました。